

The PEANUTS!

生物生産科 作物班 (担当教諭：越後博之)

班員：吹田凌大、葛西和志、木村凱、工藤舜之介

工藤聖悟、菊池健吾、齋藤翔哉、工藤伶斗 以上8名



1. 動機

気候変動に伴い、様々な作物の産地北上が考えられます。極端かもしれませんが、現在関東で栽培が盛んに行われている落花生2品種(千葉半立、郷の香)を育て、品種による収量の違い、育てやすさ等について検証することにしました。

2. 目標

- ①複数の品種を作って収量の違いを調査する。
- ②育てやすさ、育ちやすさを総合的な部分で判断する。

3. 実施概要

1) 期間	令和2年5月7日～
2) 場所	生物生産科圃場
3) 品種	千葉半立、郷の香
4) 手順	1…各品種畝立て(形を整え、見た目もきれいに) 2…播種 一か所一粒まき 3…水やり たっぷりと



4. 年間計画

4月	年間目標の決定
5月	試験区の設定、落花生の播種
6月	灌水、除草
7～9月	除草
10月	収穫、調査終了
11月	データ整理
12月	データ入力



5. 調査項目

落花生の播種、畝立て(2本、幅30cm各品種50cm幅)

畝1:千葉半立播種(20株)

畝2:郷の香播種(20株)

6. 調査結果

①発芽の違い

自家採取した千葉半立ちの発芽率は80%(16/20)

購入した郷の香の発芽率は10%(2/20)

→原因分らず

②生育の違い

2品種ともに大きな違いはない

③収量の違い(乾燥重量)

千葉半立…220g/株 郷の香…205g/株

④味の違い

千葉半立…販売品同様の味

郷の香…千葉半立よりも甘みがあるように感じる

7. まとめ・考察

◇栽培方法の違いはない

◇病気の発生はなかった

◆発芽率に大きな違いがあった

→購入種子の発芽率が悪かつ

たが、原因は不明

※植え付け深さによるもの?

◇味は千葉半立より郷の香が良

◇追肥しなかったためか、粒の大きさは小さめであった。

2年連続での栽培で栽培可能であることを実証できた。しかし、収穫後の乾燥調製時期と秋の長雨が重なり、カビが生えることもあったため、収穫後の調整場所を雨が当たらない場所に確保する必要がある。

落花生は栄養価も高いことから、エネルギー補給としても重要な作物であるため、今後機会があった際には粒の肥大と土壌との関係について研究してみたい。



150℃ 60分ロースト



以上